

C 1

女性用家庭百科には戦後の百科事典の流行も関連すると思うが、江戸時代に大量出版された女訓書も無関係とは考えられない。したがって、戦後のみならず時代的にもっと広い視野で考えてみると更に面白いと思う。また、ビジュアルに関しては江戸時代でも絵本の形で出ているため、写真をもってビジュアル的な資料と位置付ける検討には疑問が残る。多岐への興味が見受けられるが、テーマを絞り深められるとさらに素晴らしい研究になると思う。

Q 1

女性向けの家庭百科は、そもそも何故出版されていたのか。結局、売れるから発売されていたものなのか。

A 1

戦前から出ている啓蒙的指南書は、新婚時の家事指南書として出てきたが、女性雑誌の関連などから考えると、百科事典だったら何を出しても売れたという背景がある。

Q 2

これまでは家族内で代々受け継ぎ、教えられてきたようなことが、核家族化に伴い徐々に不可能になってきたために、指南書みたいなものが必要になってきたということか。

A 2

そんなに簡単な話ではないと考えており、自分の知識を正当化するという側面が非常に大きかったのではないかと思う。

Q 3

冷蔵庫のぎっしり詰まった写真については、詰まっているのは独自の科学性の萌芽であるという話であったが、ここでの科学性とはどのような意味で使われているのか。

A 3

科学性とは、科学的という言葉方で手順に対してそれが言われる場合と、単に専門家が使っている知識であるから科学的と言われる場合との二種があると思うが、ここでは、一般の人がその内容を分らない、要するにブラックボックス化しているために科学的なのではないかと思う。

Q 4

この時代の別の文章に、冷蔵庫にぎっしり詰めるのは良くないという記述があるのか、それとも発表者自身の見解か。また、なんのためにこんなに詰めたのか、編集者の意図がよく分からないが、時代背景の中でいつの間にか形成されたものが流用されて、写真でも多く詰めているということか。

A 4

抽象的な絵では少なくしてあり、自身もそれを見て写真の容量は多いと思った。これに関してはテレビCMでも同様にぎっしり詰めてあり、高度成長期の理想を表していたのではないか。

Q 5

こういう研究に最も挑んでいるのは家政婦会社、ハウジングメーカー、ガス会社といった所である。しかしその方面の研究蓄積は一切見ようとしていないが、そもそも先行研究に含んでいないのか。

A 5

その様なことはないが、今回は対象を絞ったため説明しなかった。しかし更なる資料調査が必要である。

Q 6

冷蔵庫と共にトースターの機能が一つであったにも拘わらず、トースターが重宝されたというのは、多機能化の道具が重宝されたという発表者自身の考察と矛盾を感じる。どうしてトースターは普及したのか。つまり1960年代においては、家電製品の多機能性というのは重視されておらず、70年代、80年代と徐々に重視されたということか。また、メディアには頻繁にトースターは取り上げられていたのか。それは空間制圧性をメディアで普及させたと同様、トースターをあえてメディアが冒頭に持ってくるくらいに取り上げたということか。

A 6

恐らく当初はオーブントースターが効果であり、60年代に重視されることにより現在に繋がっているのではないかと考える。そしてその規範や空間を制圧しようということがメディアを通じて、恐らく60年代辺りに普及していったのではないかと思う。また、本来であったら空間制圧すよう勧めるところとトースターの単機能というのは両立しないが、モノが普及することに伴い、オーブントースターが簡単に手に入ることにより取ってかわられたとも考えられる。